

- ② 産前・産後の支援を充実
- ③ 救急車の適正な利用を
- ④⑤ **特集** 健やかな毎日を
ずっと、自分の歯で
- ⑥⑧ 街の話題/コラム/お知らせ

デジタル広報配信 アプリは「マチイロ」「カタログポケット」 ネットは「マイ広報紙」



ふるさとを 担ぐ

木々に囲まれた温水の春日神社。飾り付けされた本殿や舞台上の春の木漏れ日が差し込みます。威勢の良い掛け声とともに担がれた立派なみこしが、鳥居をくぐって住宅街へ向かいます。

日々を無事に過ごせたことへの感謝と地域の発展を願う例大祭。30年ほど前から、神を宿したみこしを担いで街中を巡るようになりました。祭りを取り仕切る井萱修己さん（77・温水）は「例大祭は地域とのつながりを守る大切な行事。楽しみにしている人のためにも次の世代につなぐたい」と温かく見守ります。

「みこしを担ぎ歩く『そいや、そいや』という声に誘われて家から出てきた人々には、笑顔が広がります。多くの人たちの手で受け継がれてきた地域の祭り。ふるさとをつなぐ場として大切に守り伝えられています。」

Q Zoom Up

安心して子育てできるまちに

産前・産後の支援を充実

安心して子どもを産み育てられるよう、母子支援に力を入れています。4月からは健康管理の充実と経済的負担の軽減を図るため、妊婦健康診査の助成額を拡大。不妊治療のうち保険適用外となる先進医療費助成の新設、訪問型産後ケア利用回数の拡大なども実施しています。

昨年、市内では千人以上の新たな命が生まれました。妊娠期は、赤ちゃんの誕生に期待が高まる一方で、体調や心が不安定になりがちです。出産予定の方が健やかな妊娠生活を送れるよう、4月から妊婦健診費用の助成額を最大8万円から県内トップクラスとなる11万円に増額しました。

妊娠期から寄り添う

妊婦健診は、母子の健康状態を定期的に確認するために欠かせません。妊娠期間中は心と体の変化が大きいため、医師や助産師による専門的な診察



定期的な健診で妊娠の経過を確認

産前・産後、子育て期を支援

- 妊娠応援事業(不妊治療) **新規** 上限10万円/1回
【回数】治療開始時の女性の年齢が
40歳未満=6回まで
40～42歳=3回まで
- 妊婦健康診査 **拡大** 最大8万円→11万円
- 産婦健康診査 上限5000円/2回
産後間もない時期に心や体などの状況を確認
- 1カ月児健康診査 **新規** 上限4000円/1人
- 産後ケア
産婦の身体的な回復や授乳指導、相談など。
【利用可能時期】新生児訪問後→出産後1年以内
・アウトリーチ(訪問)型 **拡大**
【利用回数】2回→7回
・デイサービス(通所)型
・ショートステイ(宿泊)型
- 新生児聴覚検査
上限3000円/1回
- 妊婦歯科健康診査
自己負担1000円/1回
※各支援の詳細は市HPに掲載



詳細はこちら

切れ目のない支援を

出産後すぐに始まる赤ちゃんとの生

や相談を通じた健康管理などが大切です。出産を控える大金紗央里さん(26・妻田)は「初めての妊娠で不安もあるが、定期的な健診に通い安心してきている。子育てには費用がかさむため、助成は心強い」と話します。

不妊治療のうち保険適用外となる先進医療費の一部や1カ月児健診、産後間もない方が対象の産婦健診の助成も実施(左欄参照)。安心して子育てできる環境を整えています。

他にも妊婦歯科健診や新生児聴覚検査費用の一部補助、親同士が相談・交流できる場を設けるなど、さまざまな面からサポートし、子育て環境の充実に取り組んでいきます。

☎こども家庭センター ☎225-2597

LINEで手軽に予約

講座予約システムが新しく

市で開催するイベントや講座などの予約が、市公式LINEに移行します。

☎広報シティプロモーション課 ☎225-2040

【主な特徴】

- ・24時間、365日、いつでも予約が可能
- ・一度登録すればログイン不要
- ・質問に答えるだけで予約が可能
- ・LINEアカウントがなくても、インターネット環境があれば利用が可能(パソコンでの操作を推奨)

【利用方法】



①市公式LINE(@atsugicity)を友だち登録



②メニューの「講座予約システム」を選択



③メニューが切り替わるので希望の内容を選択

【サービス開始日】6月1日～
※6月1～30日は、現在の講座予約システムも稼働します

詳細はこちら



参加者募集

保育のしごと就職フェア

市内保育施設の保育士が、園の特色を紹介しながら就職のアドバイスをします。

☎保育課 ☎225-2768

日時 7月5日 13～16時

会場 あつき市民交流プラザ

対象 市内の保育施設に就職を希望する・興味のある方
※託児あり(1歳～小学3年生10人)

☎不要。託児を希望する場合は6月17日までに電話で保育課へ。先着順。



詳細はこちら

改正戸籍法が施行

振り仮名の確認を

戸籍の氏名に振り仮名が記載されます。記載予定の振り仮名を知らせる通知が、本籍地から届きます。市に本籍がある方には7月に発送しますので、誤りがないかの確認をお願いします。

☎市民課 ☎225-2113

誤りがある場合には届け出が必要です

期限 2026年5月25日まで

届出 本籍地、住所地またはマイナポータルに届け出



詳細はこちら

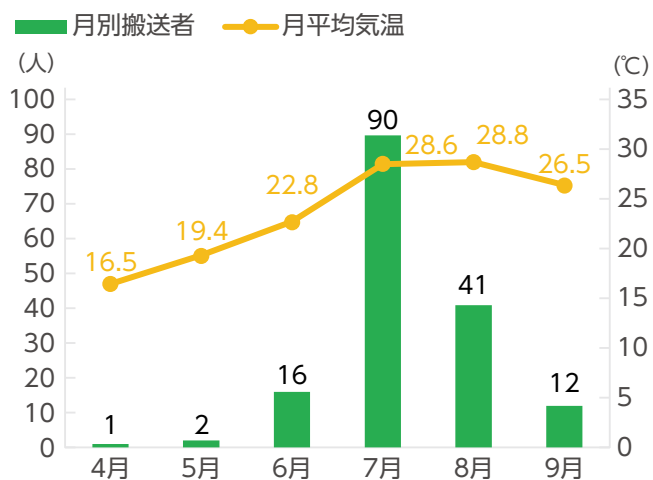




市内では9台の救急車を運用

愛TV 6/1~

市内の熱中症による搬送者・平均気温（2024年）



体が急な気温上昇に慣れていないことが原因で、8月よりも7月に多い傾向にあり注意が必要です。

Q Zoom Up

夏は熱中症での救急出動が増加 救急車の適正な利用を

昨年、市内の救急出動件数は過去最多となりました。厳しい暑さを迎えるこれからの季節は、熱中症による搬送者数が増加します。救える命を確実に守るため、熱中症の予防や救急車の適正な利用を心掛けましょう。

熱中症を防ぐために

昨年、市内の救急出動件数は1万4739件で、前年から約千件増加しました。気温が上昇する6月から8月にかけては、熱中症による救急要請の増加が見込まれています。熱中症対策をして健康被害を減らすことが、自らの命や救急車を本当に必要とする多くの命を守ることに繋がります。

熱中症は、高い気温や湿度で体温調節がうまくできず、目まいやけいれんなどの症状を起こす病気です。昨年は、162件の救急搬送がありました（左欄参照）。防ぐためには、小まめな水分補給や健康管理、エアコンの利用などが重要です。救急救命課の臼井玲路さん（46）は「買い物や散歩の途中でも、急な気温上昇で熱中症になる場合がある。体調や気温の変化には気を付けてほしい」と呼びかけます。

気温が上昇し、熱中症の危険性が高まる場合は警戒アラート、災害級の暑さが予想される場合には特別警戒アラートが発表されます。発表時は、涼しい場所への移動や周囲の人に声を掛

救急車を正しく利用

けるなど、命を守る行動を取りましょう。

救急要請の増加に対応するため、昨年、日勤救急隊を設立し増隊しました。しかし、「感染症の検査をしたい」「爪が痛い」など緊急性が低い要請も多く、現場はひっ迫しています。救急車を呼ぶか迷った場合には、かかりつけ医やあつぎ健康相談ダイヤル24を活用しましょう。「強い頭痛がある」「呼吸が苦しい」などの症状がある時は、迷わず119番通報をしてください。

救急車は、限りある資源です。一人一人の熱中症対策や救急車の適正利用を意識しましょう。

☎救急救命課 ☎223-9365

救急車を呼ぶか迷う時は あつぎ健康相談 ダイヤル24

☎0120-31-4156

医師や保健師、
管理栄養士などの
専門家が、24
時間体制で相談
に応じます。



詳細はこちら

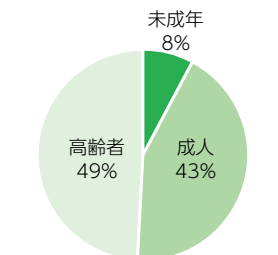
猛暑から命を守る

熱中症予防のポイント

梅雨が始まる6月から、熱中症の危険が高まります。昨年の熱中症による搬送者数の約34%は屋内で発症。屋内外を問わず、十分に注意しましょう。

■年齢問わずに警戒を

高齢者や子どもは熱中症になりやすいため、特に注意が必要です。周りの人にも声を掛けましょう。



熱中症で搬送された人の割合
(2024年市消防本部管内)

■予防のために

- ・喉が渇く前に水分補給（1日当たり1.2ℓ程度）
- ・エアコンを適切に利用する
- ・外出時、日傘や帽子を身に着ける
- ・栄養や睡眠など、健康管理に気を付ける

■疑いがある時は

- ・涼しい場所に移動して安静にする
- ・水分と塩分を補給する
- ・ぬれたタオルなどで体を冷やす
- ・症状が治まらない時は救急車を呼ぶ



詳細はこちら

☎健康医療課 ☎225-2174

熱中症の危険をお知らせ 特別警戒アラートなどを発表

湿度や気温を基に算出される暑さ指数が基準値を超えた時、指数に応じて2種類のアラートが発表されます。発表時は、命を守るための行動を心掛けましょう。

☎健康医療課 ☎225-2174

	警戒アラート	特別警戒アラート
発表基準	県内のいずれかの地点で暑さ指数33以上が予想される時	県内5カ所の地点で暑さ指数35以上が予想される時
発表時間	前日の午後5時・当日の午前5時以降	前日の午後2時以降
発表方法	防災行政無線、環境省公式HP・LINE	防災行政無線、市HP・LINE、デジタルサイネージ、環境省HP・LINE

警戒アラート発表時

外出を控え、涼しい環境で過ごす。熱中症のリスクが高い高齢者や子どもに注意を呼び掛ける。

特別警戒アラート発表時

市が主・共催する催しが中止となる。公共施設の使用が制限され、クーリングシェルターも設置される。



詳細はこちら



■クーリングシェルターとは

猛暑から命を守るため、自宅に涼しい環境を用意できない人が避難する施設

指定避難施設（18カ所）

各公民館・分館、あつぎ市民交流プラザ、保健福祉センター

避難時の注意事項

- ・飲み物や食料など、必要な物を持ってくる
- ・日差しが強くなる前に行動する

☎環境政策課 ☎225-2746

----- 健康の相談・講座 -----

誰でも参加できる相談や出前講座を開催しています。生き生きと過ごすために、歯と口の健康を考えてみませんか。

健康医療課 ☎225-2201

■歯と歯ぐきの健康相談

《日時》6月23日 10～12時

《会場》保健福祉センター

《内容》歯科衛生士による歯磨きや口の悩み相談

※参加者には歯間ブラシやデンタルフロスなどをプレゼント。

《対象》市内在住の方

《費用》無料

☎不要

■健康あつぎ推進リーダーの出前講座

地区のイベントや自治会の集まりなどでの出前講座の依頼を受け付けています。依頼方法などの詳細は、健康医療課へ問い合わせてください。

《主な内容》顔・口・舌の健康体操やストレッチ・運動、歌うことによる心のリフレッシュなど

早期発見・治療で健康に

オーラルフレイル健診

加齢による口腔機能低下の早期発見・治療につなげるオーラルフレイル健診を実施しています。

《期間》2026年2月14日まで

《場所》市内実施医療機関

《内容》そしゃくや滑舌、舌圧の診査など

《対象》市内在住の26年4月1時点で

①65歳②70歳③75歳以上の方

《費用》1500円

(70・75歳以上は無料、費用免除制度あり)

☎6月中旬から市が対象者に送付する受診券を持ち、希望する実施医療機関を予約。送付前に受診を希望する方は健康医療課へ。実施医療機関や受診の流れなどの詳細は市HPに掲載。

健康医療課 ☎225-2201



詳細はこちら

歯と口の日々のケアが
全身の健康に

厚木歯科医師会 副会長
内田 善久さん (64)

歯と口の健康は、食事や会話を楽しむだけでなく、全身の健康と深く関わっています。虫歯や歯周病が進むと、菌による毒素が体内に侵入し心臓や脳などに伝わり、大きな疾患を引き起こすリスクが高まります。

健康な状態を保つには、正しい歯磨きや歯間ブラシなど毎日のセルフケアに加えて、定期的な健診が欠かせません。いつまでも自分の歯であるために、虫歯やかむ・飲み込むといった口腔機能の低下など、変化にいち早く気づき治療に結びつけることが大切です。知識を深め、予防の習慣付けが健康寿命を延ばす第一歩。まずはできることから始めてみてはいかがでしょうか。違和感や痛みを感じた時は「大丈夫だろう」と思わず、早めに歯科医院を受診してください。

虫歯を防ぐポイント

- ・歯ブラシは年齢に合う大きさの物を使う
- ・「食べたらずき」が基本。歯茎にもブラシが当たるように磨き、歯間ブラシやデンタルフロスなども使う。フッ素入りの歯磨き粉も効果的
- ・食事の際はよくかみ、柔らかい物だけでなく、かみ応えのある物を食べる
- ・歯科医院などでの定期的な健診やクリーニングを受ける



月1回の集まりで活動内容を確認

推進リーダーは、2011年に発足し、現在は20代から80代までの16人のメンバーが所属。依頼を受けて開催する出前講座を中心に、口の健康体操に加えてストレッチや歌を歌うなど、体を元気にするための知識を伝えていきます。横田さんが、健康を考えるようになったのは7年前。勤め先で受けた健康診断の結果に、危機感を覚えたのがきっかけでした。「健康は大事」との認識はあったが、行動は何もしていなかった」と振り返ります。本や動画で知識を学び、運動や食事の栄養バランスを気にしているうちに、生活習慣や健康への意識が変わっていったと言います。そんな時に推進リーダーの募集

まずは関心を

「口」を健康に保つのは、運動や食育のほか、社会参加に必要なコミュニケーションを図る上でも大切なこと。そう話す横田剛一朗さんは、胸に「健幸」と書かれたそりいシャツに袖を通し、書ぶり手ぶりを交えながら、笑顔で口の体操を教えます。横田さんは、ボランティア団体・健康あつぎ推進リーダーの一人です。

実感した効果を
皆さんにも

健康あつぎ推進リーダー

横田 剛一朗さん (54・妻田南)



講座は年間40回程度実施している



笑顔で体操を教える横田さん

出前講座は、要望に応じて推進リーダーたちが内容を考えています。説明では専門用語は控え、道具を使ったり、一緒にやってみたりと、楽しくて分かりやすい講座を心掛けます。横田さんは「受講者から『毎日続けている』『効果が出た』などの声をじかに聞けた時間が、やってよかったと思える瞬間」と目を細めます。一人でも多くの人に健康で幸せになつてほしいと願う横田さんは「一日10分でもいい。小さな習慣をつくってほしい」と力強く話します。「口を開けて舌先に力を入れて動かします」「右、左、上、下」「皆さん上手ですね。今日も部屋からは、元気な声が聞こえてきます。

楽しみながら健やかに

健康に向けて取り組んだ経験を生かせると思い応募した横田さんが、歯と口の健康を知ったのは推進リーダーとして活動する中でした。「勉強してきたつもりだったが、歯と口にも健康がある」と聞いて、目からうろこが落ちる気持ちだった」と笑顔で振り返ります。体操の方法や効果、専門的な知識などを一から学び、自身でも毎日、顔や口の体操をするようになりました。続けていると、友人たちから「滑舌が良くなった」「ほうれい線が薄くなり表情が明るくなった」などと言われることが増え、身をもって効果を感じることがになりました。「口の健康を知らない人は多い。自分自身が必要性を感じられたので、皆さんにも伝えたい」。活動にも力が込められます。

特集 健やかな毎日を

ずっと、自分の歯で

楽しい食事や会話、趣味、運動ー。私たちの何げない日常を歯と口の健康が支えています。特集では、6月4日から10日までの「歯と口の健康週間」に合わせ、自身の経験から歯の大切さを伝える2人の姿を追いました。健康医療課 ☎225-2201

健康の一助に

亀川さんが歯科衛生士を志したのは、高校生の時です。姉が歯科衛生士だったことや、家族や周りにも勧められて専門学校に進学。専門的な知識や実技などを2年間にわたって学び、資格を取得しました。卒業後は歯科医院で勤務し、医師の指示を受けながら虫歯予防の処置やブラッシング指導、診察の補助などに当たる毎日を送りました。「かめなかつた患者さんが治療で良くなり、明るくなったときはうれしかった」と振り返ります。

歯が痛くて食べられない、体に不調を来した患者などを目にしてきた亀川さんは、年を重ねるにつれて、歯の健康やケアの大切さをひしひしと感じるようになります。39歳の退職を機に、市が実施する乳幼児の健診や健康相談に出合い、「知識や経験を生かし、多くの方の健康を支える力になれるかもしれない」と、2006年から相談員などとして活躍しています。

晴れやかな明日へ

「不安の解消に向けたアドバイスは



相談者の悩みに丁寧に応える亀川さん



メモを取り一人一人に合った助言を

穏

積み重ねた歩みを
生かして

歯科衛生士
亀川 美乃さん (57・岡田)



子どもにも優しく声を掛ける

もちろん、まずは声をしっかりと聴くことを心掛けています」と話す亀川さん。約19年間にわたり、子どもから大人まで幅広い年代の悩みに心を通わせてきました。子どもの相談では、歯磨きを嫌がる、歯並びが気になるなど予防の話が中心。「予防は早いうちから」と、磨き方のポイントや歯ブラシの選び方を模型などを使いながら、分かりやすく伝えていきます。成人には、虫歯やかみ合わせに加え、インプラントなど専門的な悩みも寄せられます。中には、「通院しているが、詳しく聞けないので来た」という人もおり、相談できる環境や自分の役割への充実感をのぞかせます。

「二人で悩まず、小さなことでもいいので、まずは相談してほしい」と呼び掛ける亀川さん。「痛みがあるから病院に行くのではなく、人間ドックと同じように予防を意識してほしい。『きれいに保つ』という健康意識を高めるために、これからも声を掛けていきたい」と力を込めます。「いつまでも元気になれるように」。亀川さんは今日も訪れた相談者を優しく受け入れ、豊かな経験と知識を惜しみなく伝えていきます。

花と緑に親しむ2日間 厚木中央公園で「緑のまつり」を開催



色とりどりの花で虹を描いた

街中で花と緑に親しめる「緑のまつり」が2日間、約3万2千人がイベントを楽しみました。

祭りは、花や木々がもたらす潤いを感じてもらうために開催し、今回で48回目を迎えました。会場には市内産の花を使った円形花壇や市の花サツキの盆栽などが展示。廃棄される花びらで大きな絵を描くフラワーカーペットの制作も行い、多くの来場者が鮮やかな花びらを並べました。

会場を訪れた山田京子さん（55・みはる野）は「子どもに厚木の自然環境や取り組みを知ってほしく、毎年来ている。家族の思い出にもなるので来年も楽しみ」と笑顔を見せました。

森の里地区で全国初 「モビリティスクーター」でパトロール

武井代表は「まずはパトロールに活用しようと考えた。地域の情報ネットワークとも連携し、この地域に住みたい、住み続けたいと思ってもらえるよう活動したい」と意気込んでいます。



約2時間で森の里地区の全ての路地を走る

最高時速15kmほどの一人乗り四輪駆動車「モビリティスクーター」を活用した防犯パトロールが、4月から森の里地区で始まりました。

一般社団法人「厚木ぐるっと」（武井主税代表理事）がスクーター2台を購入。12人の地域住民が、地区内をくまなく巡回しています。スクーターの本格的な公道走行、パトロールへの活用は全国で初めて。外国では高齢者の移動手段として注目されており、同地区では2023年度に国内導入に向けた実証実験を実施していました。

「一般社団法人「厚木ぐるっと」（武井主税代表理事）がスクーター2台を購入。12人の地域住民が、地区内をくまなく巡回しています。スクーターの本格的な公道走行、パトロールへの活用は全国で初めて。外国では高齢者の移動手段として注目されており、同地区では2023年度に国内導入に向けた実証実験を実施していました。」

女性の暮らしや歴史を伝承 「あつぎの女たち・25周年記念誌」を寄贈

市内在住の女性を中心とした自主グループ「さがみ女性史研究会『さねさし』」が、自らの歩みや戦争をテーマにまとめた書籍を寄贈し、市に26冊を寄贈しました。

「さねさし」は、公文書などには残りにくい女性の歴史を後世に伝えようと、1999年に創立。2004年に初めて書籍を編さんし、今回で5冊目の発刊となりました。これまでの女性を取り巻く社会の動きや、戦争体験などが記されています。代表の中村碩子さんは「会を発足して25年。女性の暮らしや歴史を残したいという思いで制作した。多くの方に読んでいただきたい」と話しました。

書籍は、公民館、中央図書館、郷土博物館などで閲覧できます。



冊子はA5サイズで160ページある

安心して外出できるまちに

客引き行為・路上喫煙防止合同パトロールを実施

悪質な客引きなどの防止を呼び掛けるパトロールが厚木一番街商店街周辺で実施され、市や警察、商店街の関係者など54人が警戒に当たりました。

パトロールでは、5月から県迷惑行為防止条例で新たに取り締まりの対象になった居酒屋やカラオケ店による客引き行為の警戒や指導、禁止行為の注意喚起を実施。路上での喫煙防止も啓発しました。参加者は約30分間にわたって巡回し、客引きをする従業員や路上喫煙をしている通行人に声を掛けました。

山口貴裕市長は「悪質な客引きなどに不安を感じる方は多い。楽しく本厚木駅周辺を利用できるよう、皆さんと一緒に安全なまちづくりに取り組んでいきたい」と力を込めました。



厚木警察署・商店街振興組合と合同でパトロール

未来へ一歩つながる あつぎ70年 みんなで祝おう！70周年

2025年2月1日、市制施行70周年を迎えました。節目の年を皆さんとお祝いするため、スポーツ・文化芸術・歴史など幅広い分野で事業を実施します。連載では、旬な話題を紹介していきます。

今月の話題 書家・金澤翔子さんの記念作品を展示

2月1日の市制70周年記念式典で書家・金澤翔子さんが文化会館の壇上で書いた「飛翔」の作品展示が、あつぎ市民交流プラザで始まりました。



作品は5階のサロンスペースで見られる

式典での席上揮毫のパフォーマンスは、見た人に多くの勇気と感動を与えてくれました。当日の様子は市公式YouTubeなどで公開中です。

70周年に関する事業やイベントなどの情報は、市制70周年記念サイトに掲載しています。



カラフルな壁画に感動！

「芸術は爆発だ！」。1970年の大阪万博でシンボルアートとなった「太陽の塔」を手掛けた芸術家・岡本太郎さんの言葉です。時を経て大阪万博が再び開かれる中、本市では複合施設「あつぎ」の工事現場の仮囲いに子どもたちが思い思いに絵を描くイベントを開催しました。

子どもたちの前にそびえ立つのは、高さ31m、幅11mの「巨大キャンバス」。市内出身のアーティスト・井上純さんと赤、青、黄などのペンキを使って手形や絵などを描きました。その作品はまさに個性の「爆発」で、重なり合う色に芸術を感じました。井上さんからは現場の熱を教えてくださいました。

「まちは人がつくり、文化・芸術は人をつくる」。その思いから、私は「文化・芸術の聖地づくり」を唱えています。市民交流プラザのアートギャラリーには、皆さんが発表する絵画や写真が並びます。作りの熱い思いから、エネルギーや潤いをもたらせるお気に入りの場所です。

2023年には民間事業者と協定を結び、商業施設での定期演奏会も開催。中町花の公園では、路上ミュージシャンによる「あつぎストリートフェス」も展開しています。今後も、誰もが文化・芸術に参加して楽しめる環境をつくってまいります。

タウンガイド

6月

日	月	火	水	木	金	土
1	2	3	4	5	6	7
8	9	10	11	12	13	14
15	16	17	18	19	20	21
22	23	24	25	26	27	28
29	30					

7月

日	月	火	水	木	金	土
		1	2	3	4	5
6	7	8	9	10	11	12
13	14	15	16	17	18	19
20	21	22	23	24	25	26
27	28	29	30	31		

☎=申し込み ☎=問い合わせ ☎=電話番号
 FAX=ファクス番号 ✉=Eメール HP=ホームページ
 📅=講座予約システム (70th)=市制70周年記念事業
 愛TV 6/1~ =市広報番組あつぎ愛テレビ
 市役所への郵便物は「〒243-8511〇〇課」で届きます。

あつぎのしゃしん。



「みどりの季節」

#5月13日撮影
 #新緑
 #森の里
 #niceatsugi
 市公式インスタ
 グラムで公開中



70th こどもフェスタ2025

楽しい遊びや体験がいっぱいのイベントです。
 ☎青少年課 ☎225-2580

《日 時》7月6日 10～16時

《会 場》荻野運動公園

《ゲスト》小島よしお、チアリーディングチーム・ATSUGI ALL☆STARSほか
 《内 容》ゲストによるステージショーやキッズワークショップ、ロボット・ドローン操縦体験、eスポーツほか
 ☎不要。室内履きをお持ちください。

■ボランティア募集

《対 象》小学生16人

《内 容》イベントの企画・運営
 ☎6月13日までに市HPから申し込み。抽選。



詳細はこちら



【プロフィール】

小島よしお

子どもに大人気のお笑い芸人。「そんなの関係ねえ」がブレイクし、バラエティやクイズのテレビ番組やYouTubeなど、幅広く活躍している。

あつぎストリートフェス (市民協働提案事業)

6月21日、15時30分～19時30分。中町花の公園。路上ミュージシャンによるストリートライブ。無料。☎不要。☎文化魅力創造課 ☎225-2508。

笑顔咲く！カラダ快活★講座

7月11日、10時～11時30分。あつぎ市民交流プラザ。健康あつぎ推進リーダーによる運動や口などの健康講座。市内在住の方30人。無料。☎6月26日までに健康医療課 ☎225-2201へ。抽選。📅

救急救命講習会

■応急手当普通救命講習会

6月24日。小児・乳児への応急手当での重要性、心肺蘇生法、自動体外式除細動器（AED）の取り扱いなど。市内在住在勤在学の中学生以上30人。

◆応急手当普通救命講習会（聴覚障がいの方対象）

7月5日。液晶画面付きAEDで心肺蘇生法などを学ぶ。手話通訳・要約筆記あり。市内在住在勤在学の中学生以上で、耳に障がいのある・聞こえづらい方15人。

いずれも9～12時。消防本部。無料。
 ☎6月2～10日に■直接または電話
 ◆ファクスまたはEメールに氏名、

連絡先を書き、救急救命課 ☎223-9365 FAX 223-8252・✉6550@city.atsugi.kanagawa.jpへ。抽選。📅

保護者セミナー「こどもを受け容れ、見守るかわり方」

7月4日、15時15分～16時45分。あつぎ市民交流プラザ。講話と情報交換。子どもの学校生活に不安がある保護者など25人。☎6月1日～7月3日（託児希望者は6月20日まで）に青少年教育相談センター ☎225-2520へ。先着順。

（仮称）北部地区公園の都市計画原案の説明会、縦覧、申出書の受け付け

《縦覧・公述申し出期間》6月6～19日《縦覧場所》都市計画課または市HP《公述申し出》市内在住在勤または、当該都市計画と利害関係がある方など。☎都市計画課や市HPにある申出書を、直接または郵送（必着）、ファクス、Eメールで〒243-8511都市計画課へ。

■説明会

6月10日、19～20時。依知北公民館。
 ●公聴会の傍聴（公述申し出があった場合に開催）

7月4日、19～21時。依知北公民館。
 ■●は手話通訳・要約筆記あり。

☎■不要。●電話またはファクス、Eメールに会の名称、〒住所、氏名（ふりがな）、電話番号を書き、6月

25日～7月3日に都市計画課 ☎225-2400・FAX 222-8792・✉4600@city.atsugi.kanagawa.jpへ。■●先着順。

高齢者バス割引乗車券(かなちゃん手形)購入費助成

神奈中グループの一般路線バスの全区間を1乗車100円（深夜バスは200円）で利用できる割引乗車券の購入費用を助成します。

《対象》1月1日現在、市内在住で2026年4月1日時点で70歳以上の方《助成額》7800円（自己負担額3000円）

日程	販売場所
6月16・17日	保健福祉センター
18日	荻野運動公園
19日	緑ヶ丘・依知南公民館
20日	南毛利公民館
23日	森の里・睦合西公民館
24日	睦合南・玉川公民館
25日	荻野・相川公民館
26日	依知北公民館・上荻野分館
27日	小鮎・睦合北公民館
30日	老人福祉センター寿荘
7月1日～8月31日	神奈中本厚木駅前サービスセンター

《販売時間》6月16～30日＝9時30分～15時30分。7月1日～8月31日＝9～19時（土・日曜、祝日＝9～17時）。☎不要。対象者には通知を郵送（高齢者タクシー利用券交付者などを除く）。☎福祉総合支援課 ☎225-2220。

環境審議会の委員を募集

環境基本計画や環境保全などを審議・検討する委員を募集します。

《対象》①市内在住在勤在学で応募日現在18歳以上②平日昼間の会議（年4回程度）に出席できる③他

の審議会などの委員でない④市の議員・職員でない―の全てを満たす方4人《任期》8月から2年間《報酬》日額7800円（交通費含む）。☎環境政策課や公民館、市HPにある申込書を、直接または郵送、Eメールで6月20日（消印有効）までに〒243-8511環境政策課 ☎225-2749・✉3100@city.atsugi.kanagawa.jpへ。

6月1日は「景観の日」

身近で大切な景観を改めて考える機会にし、次世代につなげるため一人一人ができることから始めてみましょう。☎都市計画課 ☎225-2401。

国民健康保険料の納入通知書を6月中旬に発送

会社などの健康保険に加入した方は、国民健康保険の脱退手続きをしてください。☎国保年金課 ☎225-2123。

介護保険料の納入通知書を6月中旬に発送

災害や生活困窮などで支払いが困難な場合は、相談してください。
特別徴収＝年金受給額が年額18万円以上の方。年金の定期支払い（年6回）の際に差し引き（老齢福祉年金を除く）。
普通徴収＝年金受給額が年額18万円未満の方。納付書または口座振替で納付。年度途中で65歳になった方や転入した方などは、特別徴収に切り替わるまで普通徴収。☎介護福祉課 ☎225-2393。

住宅デー

6月15日、10～15時（小雨実施）。松原公園（松枝1-196-2）。包丁研ぎや木工教室、住宅相談など。無料。☎不要。☎厚木建築職組合 ☎224-7538。



無料

少年少女消防教育

夏休みに、防災体験を通して災害への意識を高めませんか。

☎予防課 ☎223-9371

《日時》7月24日 9～16時

《会場》県消防学校（下津古久280）

《内容》消防車や救急車の乗車体験など

《対象》市内在住の小学3年～中学生20人

☎6月2～20日に

直接、予防課へ。

先着順。

ホット

インターネットモニターからの意見を紹介



インターネットモニター募集中

厚木市 インターネットモニター 検索

☎広報シティプロモーション課 ☎225-2043

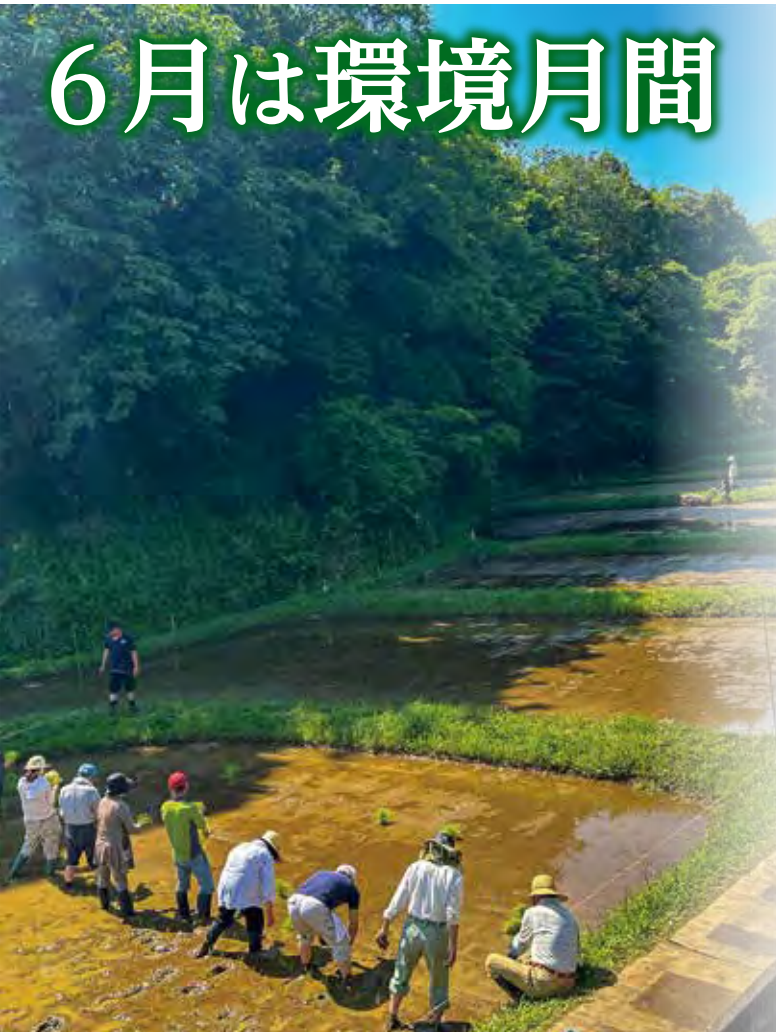
5月1日号「広報あつぎ」を読んで

◆荻野運動公園のリニューアルした遊具で遊んでみたい／30代女性 ◆アプリで視覚障がい者を支援するのは画期的なサービスだと思った。みんなが暮らしやすい世の中になってほしい／40代女性 ◆新しい厚木北公民館を利用するのが楽しみ／40代女性 ◆インクルーシブの取り組みが、当たり前的事として広がってほしい／70代以上男性 ◆子どもが安心して過ごせる場所がもっと増えるといい／60代女性

編集後記

「健康」と聞くと、運動や睡眠、食事を思い浮かべていましたが、口腔内を元気に保つことも、歯と口だけでなく体全体の健康や豊かな生活に深く関わっていると知りました。毎日のケアや予防が、将来の自分の健康を守ることにつながります。私も、いつまでも家族や仲間たちと笑顔で生き生きと過ごせるよう、口の体操や定期的な健診など、まずはできることから始めようと思います／森

6月は環境月間



里地里山の未来をつなぐ

豊かな自然に恵まれ、都心からほど近いこのまちには、昔ながらの里地里山の風景が今も息づいています。美しい自然を未来へとつなぐため、一人一人ができることを考えてみませんか。

環境政策課 ☎225-2749

里地里山とは

自然と都市の中間に位置し、集落と森林、農地、水辺などが一体となった地域。人が管理することで成立する「二次的な自然」です。近年、高齢化により維持管理をする人が減少し、従来の美しい田園風景や多様な生態系が失われつつあります。

ボランティア募集

市内には、里地里山の保全活動団体があります。豊かな自然を次の世代へつなぐため、ボランティアを募集しています。

場所 七沢、荻野
内容 田植え、稲刈りなど
対象 市内在住在勤在学の方

☎電話で環境政策課 ☎225-2749へ。



詳細はこちら

PR動画
公開中



自然と人をつなぐ場所

保全活動団体
ゆめのシステムプロジェクト
理事長 落合 清春さん (68)



一区画ごとに分けた田んぼを会員がそれぞれ維持管理し、里地里山を保全する活動をしています。活動では生態系を守るだけでなく、みんなで協力して作業をするので、地域とのつながりも生まれます。自分で作った安心・安全な農作物を食べられるのはうれしい瞬間です。

地元の美しい自然を守り、環境を学びながら保全活動に取り組みませんか。

参加者募集

あつぎミュージックフェスティバル 新人シンガー発掘オーディション

最終選考者4人には、音楽スクールで本格指導(約2カ月)。優勝者はメジャーレコード会社から配信デビューし、11月2日に厚木中央公園で開催されるコンサートで有名アーティストと共演できます。

文化魅力創造課 ☎225-2508

対 象

①市内在住在勤在学 ②市内の学校を卒業 ③活動拠点が市内
のいずれかに該当する中学生～30歳の個人またはメンバーの半数以上が条件を満たすグループ(プロダクションと契約がない方。未成年者は保護者の同意署名が必要)。

参加費

1000円(高校生以下500円)

☎あつぎ市民交流プラザや市HPにある応募用紙、音源1曲分(CD-R)、参加費を直接または現金書留で6月2～30日(必着)に〒243-8511文化魅力創造課(あつぎ市民交流プラザ)へ(音源は市HPからも提出可)。1次審査の合格者は、7月20日の2次審査に出場。



愛TV 6/1～

自然歳時記

● ジャコウアゲハ ●

アゲハチョウ科

エゴノキの花の蜜を吸っているジャコウアゲハは、羽を開くと10センチほどの大きさで優雅に飛ぶ。名の由来は雄(写真)の発する匂いが、じゃ香に似ているから／ぼうさいの丘公園で見つけた。 写真・文／吉田文雄



野山で白やオレンジの花が咲き、ジャコウアゲハやハナアブが楽しげに飛び回っていた。

このチョウは羽が少し透けたように見え、黒と赤のコントラストが美しい。前羽が傷つき尾状突起は取れそうだが、その美しさに時がたつのを忘れて見入ってしまう。

幼虫時代に食べるウマノスズクサ類が生えている場所の近くに限り、よく見られる。ウマノスズクサには毒成分がある。成虫になっても毒を蓄積しているおかげで、天敵の鳥などから危険回避をしている。長年培ってきたジャコウアゲハの不思議な知恵に感心する。

厚木市の人口
(5月1日現在)

世帯数

10万7064世帯 (前月比385世帯増)

人口

22万3270人 (前月比256人増) 男11万5118人・女10万8152人